

行事の
聴く
お話

十五夜のお話

晴れた夜に空を見上げると、月が見えますね。

まんまるの満月のときもあれば、細い三日月のときもあります。どちらも見たことがあるかな？

月は毎日少しずつ、形が変わって見えます。昔の人は、月の形を見て「三日月になったら種をまこう。」

「満月になったら野菜を採ろう。」など決めて、田んぼや畑の仕事をしていました。

きれいなまあるい月が出た秋の夜。昔の人は、スキヤ里芋、お米で作ったお団子をお供えして「お月様、ありがとうございます。」と、月を眺めました。まんまるのお団子は、お月様と同じ形です。

十五夜は、一年でいちばん、まんまるの月がきれいな夜。みんなも、お団子を用意して、ゆっくりお月見を試みるといいですね。

(おしまい)

● 聴くお話は、耳で聴いただけで、様子を思い浮かべたり、内容を理解したりするお話です。小学生になっても必要とされる、「話を聴いて理解し、考えたり行動したりする力」を育てます。行事の導入や、ちょっとした空き時間にぜひ活用ください。

